

# 道徳の時間の指導と工夫と改善

根岸 久明

## 1 はじめに

昨年度までは校長という立場であったが、もともとは教員で先輩の影響から長年、道徳教育に携わってきた経緯がある。初任校は全体的に落ち着いてはいたが、授業を抜け出す生徒、喫煙する生徒、注意された教師に暴力をふるう生徒など、課題を抱え問題行動を起こす生徒もいて、その事後指導に追われていた。そんな中、転任してきた先輩の教師から「後追い指導ではなく、先回りの指導が大事である。それには道徳の授業をしっかりとやってみることだ。」との助言を受けた。それまで道徳教育は全教育活動を通して行うものであり、取り立てて道徳の時間の指導を大切に考えるもっていなかった。それ以後、今、考えると本当に未熟な授業展開ではあったが、道徳の時間の指導を継続する中で、生徒たちの話をしっかりと聞き入れ受け止められるようになった自分があることが分かった。道徳教育は学級経営の基盤であり、先回りの生徒指導であると強く肌で感じた次第である。その後、横浜市立中学校道徳教育部会役員22年、横浜市中学校教育課程道徳専門委員会23年、横浜市教育委員会道徳教育担当指導主事6年など、中学校道徳教育の研究に携わってきたが、道徳教育の必要性が年々高まっているにもかかわらず、その充実が図られているとは言い難い現実がある。その理由は、昭和33年の道徳の時間の特設以後、道徳教育は戦前の修身の復活であるなどの考えで、道徳教育に批

判的な教員もいたが、現在はそのような声を聞くことはほとんどなくなり、道徳教育及び道徳の時間の必要性を感じている教師は多いと思われる。しかし、「道徳の時間の指導過程はよく理解できず難しい」「道徳教育は普段の教育活動の中で十分に行っている」など、とりわけ道徳教育の要である週1時間の道徳の時間が、行事の準備などの時間に振り替えられる学級や学校が多くあった。

現在は、本学の道徳教育論講師そして横浜市立中学校道徳教育部会顧問として、学校における道徳教育の課題に取り組んでいる。この課題の中心は、各中学校が道徳教育の要としての道徳の時間を定着させ、生徒にとっても先生にとっても、「自分の生き方を考える楽しい時間」にすることであり、そのためには、改めて道徳教育及び道徳の時間の目標を再確認し、道徳の時間の指導過程（学習過程）や他の教育活動との連携について改善を図る必要があると考えている。そこで、ここでは道徳の時間の指導の工夫と改善について横浜市立中学校道徳教育部会の取組の一部を紹介させていただくこととする。

## 2 道徳の時間の指導の工夫と改善

### － 横浜市立中学校道徳教育部会の取組 －

#### (1) 道徳的価値の捉え

横浜市立中学校道徳教育部会では、「道徳的価値」を人間としてよりよく生きるために必要

な望ましい見方や考え方、感じ方、行動の仕方などの道徳的資質であると捉え、「道徳的価値の自覚を深める」ことが道徳の時間の指導であり、「道徳的価値の自覚を深める」ことによ

って道徳的実践力を育てることができると考えている。

「道徳的価値の自覚を深める」段階として、次の三段階を考えている。

- ア 道徳的価値（道徳内容24項目にかかわる）についての理解を深める。
  - イ 道徳的価値を自分との関わりで様々な考え、道徳的価値を深く捉える。
  - ウ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの自覚や実践意欲を培う。
- ※道徳的価値は自分の外側にあるものとしてではなく、自分の生き方につながるものとして、自分と向き合い、自らの中に位置付けて学ばせることが大切である。

**(2) 3年間を見通した計画的・発展的な指導の工夫**

生徒の実態は学年段階によって違いがある。3年間を見通して計画的に指導するため、道徳内容（24項目）の解釈や指導の着眼点などを

明らかにし、各学年段階における生徒の一般的な成長過程に基づいて、「学年別視点及び指導の着眼点」を設定する必要がある。（「横浜市教育課程編成の指針 道徳」平成13年3月）

○ 1の視点 主として自分自身に関すること

**ア 内容項目の要点**

1－(2)より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ

人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが必要である。目標が実現した時の達成感から、次のより高い目標に向かって努力する意欲を育て、人生の理想や目的を達成しようとする強い意志を養うことが大切である。

**イ 生徒の実態と指導の方向**

自分の好むことには意欲的に取り組むことができるが、困難に直面すると簡単に挫折してしまう傾向が見られる。そこで、具体的な生活の中で、目標を達成した時の経験を振り返らせ、「つまづきはなかったか」「途中でやめてしまいたいと思わなかったかなど身近な経験を踏まえ、挫折感を克服した人間のすばらしさから、生きることへの希望と新しいことに積極的取り組みようとする勇気を持つことの大切さを理解させるとともに、最後まで粘り強く実にやり抜こうとする態度を育てたい。

**ウ 学年別視点と指導の着眼点**

学年	学年別視点	指導の着眼点
1	○ 身近な目標に向かって、困難に屈することなく、粘り強くやり通そうとする。	○ 日々の目標や目的を見失いがちな自己に気付き、身近な目標を確実に達成することの大切さを理解する。 ○ 自己の生活における身近な目標を設定しそれを確実に達成しようとする気持ちをもつ。

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標や目標達成の意義を理解し、何事にも希望と勇気をもって取り組む強い意志をもつようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己の活動に伸び悩みを感じ無力感に陥りがちになることに気付き、常に希望を失うことなく努力することの大切さを理解する。</li> <li>○ 目標や目的を見直し、最後まで粘り強くやり抜こうとする気持ちをもつ。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ より高い目標の実現を目指して、最後まで粘り強く自らの人生を着実に切り拓いていこうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広い視野から自己の人生を見つめ、一つ一つの目標を着実に達成していくことの大切さを理解する。</li> <li>○ 自己の生活に対する見通しをもって、新しいことや困難なことに積極的に挑戦し、よりよい人生を切り拓いていこうとする気持ちをもつ。</li> </ul>

横浜市立中学校道徳教育部会作成 内容の解釈と学年別視点」より

### (3) 豊かな体験を生かした道徳の時間の指導の工夫

道徳の時間は「道徳教育の要」として、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育を補充、深化、統合する時間である。

豊かな体験とは、生徒の日々の活動の中で、道徳教育の目標や道徳内容（24項目）に示されている道徳的価値をより内面的に自覚したり、より主体的な行為として表すことができる道徳的な体験を指している。

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における豊かな体験を通して、生徒が気付く様々な道徳的価値のもつ意味や大切さなどについて深く考え、より確かな道徳的実践力を主体的に身に付けることが道徳の時間の指導である。具体的には、道徳の時間の導入において体験活動で感じたことや考えたことを発表し、そのことを基に本時のねらいと関連させて学習課題として設定することにより、道徳的価値の把握や自己の振り返りなど、生徒の主体的な学びを深めることができる。

ただし、「豊かな体験を生かす」とは、道徳の時間にボランティア活動や自然体験活動などの体験活動そのものを行うことを意味するもの

ではない。また、社会の変化に対応し、自ら学び考え、豊かな心をもって、社会生活を主体的に切り拓いていく力を育成する「総合的な学習の時間」は、生徒の道徳性を育てていく上で重要な役割を果たすことが期待できるが、道徳内容全般にわたって年間を通して計画的・発展的な指導が行われているわけではなく、「総合的な学習の時間」を行うことにより、道徳の時間を行ったことにはならない。

### (4) 学習課題の設定

#### ア 学習課題

道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に当たっては、生徒が「ねらい」にかかわる課題を自分自身のこととして受け止め、主体的に学習を進めていくことが大切であり、有徳の時間であっても、課題解決的な学習を取り入れていく必要がある。道徳の時間における「学習課題」とは、その時間における学習の見通しであり、日常生活の中に見られる学級の生徒の共通の問題意識をもとにした課題である。

#### イ 学習課題設定の意義

(ア) 学習課題を設定することで、資料を通

して生徒自らが問題意識をもち、自分の課題として、その解決のために主体的に学習に取り組むことができる。

(イ) 学習課題を設定することにより学習の見通しや学習の筋道を立てることができる。具体的には、「～のようなことは大切であると思うが、なかなか実行に移せない」でいる今の自分の姿(意識)を取り上げ、「その課題を解決するためには、今の自分にどのような考え方、感じ方、行動の仕方が必要なのか」などの学習課題を設定する。

(ウ) 学習課題を解決することにより、生徒一人ひとりが資料を通して得た高い道徳的価値と照らして今の自分を振り返り、内省を図ることが大切である。

#### ウ 「学習課題」と資料との関連

資料は「学習課題」を解決する手段、手がかりとなるものである。したがって、何のために資料を読むのか、「読みの視点」を与えることが大切である。

### (5) 道徳の時間の学習過程における自己を見つめる段階(振り返り)の工夫

**ア 自己を見つめる段階(振り返り)の意義**  
道徳の時間では、資料を通して得たより高い道徳的価値と照らして、自分の生活を振り返り、自己を見つめ、自分を語ることで道徳的価値を自覚させることが最も重要なことであり、自己を見つめる段階(振り返り)なくして道徳の時間は成立しない。

#### イ 自己を見つめる段階(振り返り)を充実させる支援の方法

生徒一人ひとりが自分の問題としての解決を図る過程である。生徒相互の振り返りを促し、自己を語るように支援の方法を工夫することが大切である。

資料に対する発問だけでなく、資料を通して得たより高い道徳的価値と照らして、自分の

生活を振り返り、自己を見つめることができる発問が必要である。これまでの自分のよかった点とその理由、今の自分に必要な「ものの見方、考え方、感じ方」とその理由等をワークシートなどに記述することにより、生徒自身が意識の変容を実感することができ、生徒自身の課題解決をさせることが大切である。

そして、その記述をもとに自己を語ったり、生徒相互の振り返り(語り合い)を促すような支援が大切であり、道徳的価値の自覚が深まるようにする。

なお、体験や経験の羅列に終始することなく、体験や経験と重ね合わせて、「道徳的価値と今の自分の考え方、感じ方の違いはなぜ生まれるのか」「今の自分に必要な見方、考え方は何か」などを引き出すことが大切である。単に「これからどうする」のように、決意表明にならないよう配慮することが大切である。

## 3 まとめ

学校の全教育活動を通して道徳教育は行われるものである。そこで、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動においては、指導目標やねらいと道徳内容との関連を明確にし、それぞれの場面で道徳性を養う教育活動を展開する必要があることは言うまでもないことである。

道徳の時間の授業においては、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動で意識した道徳的価値を、年間指導計画に従って、補ったり、より一層深めたり、内容項目の相互のつながりをまとめたりしながら、「ねらい」とする道徳的価値を明確に意識しその実効性を高める時間である。つまり、DVD視聴、自然体験、福祉体験だけでは道徳の時間の授業とはいえない。

道徳の時間の授業の「ねらい」は、生徒の発達の段階や生徒の実態に即し、資料の扱いを踏まえて道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度の諸様相のどの諸様相を身に付けるのかを明確にして設定される。この「ねらい」

を達成するには、学習の主体者である生徒が、この時間で自分の見方、考え方、感じ方の何について考え、話し合い、語り合うのかを把握し、これまでの自分をしっかりと振り返り、これからの自分の生き方に結び付くような学習プロセスでなければならない。これらを十分に踏まえ、道徳の時間の中で、生徒が主体的に道徳的価値の自覚を深めるために、横浜市立中学校道徳教育部会の「3年間を見通した計画的、発展的な指導」「学習課題の設定」及び「自己を見つめる段階（振り返り）」の研究を推し進め、様々な場面で発表を行ってきた。

また、平成27年3月27日、文部科学省は中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」を受けて学習指導要領を一部改正して告示をした。そこで改正された大きな変更点は、これまでの道徳の時間を「特別の教科 道徳」（道徳科）として義務教育学校の教育課程に位置付けることである。つまり教科化されると道徳科の授業では検定教科書を使い、「ねらい」の達成を目指した様々な指導方法により授業を進め、評価も行っていくこととなる。ただ、道徳に関しては数値による評価は行わず、他の生徒との比較による評価でなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価、さらに記述式評価とすることとなっている。ここで大切なことは年間35時間の道徳科の授業をいかに充実させることができるかである。道徳教育の充実は、落ち着いた温かい学級づくりや「確かな学力」の定着にもつながることが、先進的な道徳教育研究校等で実践され確認されている。そこで、生徒たちがさらに「よりよい生き方」を目指していけるよう、より一層道徳教育の推進・充実を目指して取り組んでいければと考える。

---

**【参考文献】**

- (1) 「横浜市教育課程編成の指針 道徳」平成13年3月 横浜市教育委員会
- (2) 横浜市立中学校道徳教育部会作成「内容の解釈と学年別視点」2001年 横浜市立中学校道徳教育部会
- (3) 「中学校学習指導要領 解説 道徳編」2009年 文部科学省
- (4) 飛田 仁「学校における道徳教育」研究発表資料 2006年
- (5) 「中学校学習指導要領 解説 道徳編」2015年 文部科学省
- (6) 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）  
（平成28年7月22日 文部科学省 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）
- (7) 田沼 茂紀「道徳科で育む21世紀型道徳力」2016年 北樹出版